

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 548 号	氏名	加納 拓
学 位 審 査 委 員		主 査	渡 邊 郁 哉
		副 査	澤 瀬 隆
		副 査	原 宜 興
論文審査の結果の要旨			
1 研究目的の評価			
本研究の目的はクリームタイプ義歯粘着剤および口腔湿潤剤の各材料の粘度特性、床用レジンとの接合力、接合間距離との関係およびその評価方法について検討したものであり、その目的は十分に妥当である。			
2 研究手法に関する評価			
粘度の測定には音叉型振動式粘度計を使用し、接合力の測定には ISO10873 に準じたホルダーを装着した万能材料試験機を使用し、検討した。接合力の測定は、引張前の負荷方法に違いのある 2 種類の方法すなわち、接合間距離を 0.10 から 2.00 mm の 6 種類に規定したもの、および ISO10873 に準じて行ったもので、研究方法も妥当である。			
3 解析・考察の評価			
クリームタイプ義歯安定剤は温度が高くなるにつれ、粘度が低くなるのに対し、口腔湿潤剤は温度依存性が少なかった。引張前に定歪を与える方法では、試料の粘度が高いほど接合力は高くなったのに対し、引張前に定荷重を与える方法では、試料の粘度が低いほど接合力は高くなり、逆の結果となった。引張前の定歪あるいは定荷重の負荷方法の違いにより、床用レジンとの接合力の値が大きく異なることがわかった。今後の義歯粘着剤および口腔湿潤剤の評価方法の確立に大きく貢献するものと期待される。			
以上のように本論文は、義歯粘着剤および口腔湿潤剤の歯科補綴学および材料学的研究に貢献するところが大であり、審査委員は全員一致で博士（歯学）の学位に値するものと判断した。			